

# ひかりのこ

12月園便り

認定こども園  
聖ミエル幼稚園  
2022年11月22日

## 月主題：喜びあふれて

### 「みんなで育てる」

先日の生活発表会は多くのご家族にお越しいただきました。本当にありがとうございました。コロナウイルスがはやり始めていたとはいえ、まだ今ほどではなかったため、あのように入数制限をせずにご参観いただくことができました。

さて、以前にもお話ししましたが、私は元札幌市内の中学校の国語の教員でした。結婚し、子どもを3人授かりました。夫も育児には全面的に協力してくれ、くたくたになりながらも充実した子育ての日々でした。今は亡き夫の両親は近所に住んでいましたので、子どもの発熱や中耳炎などでは私や夫の代わりに病院に連れていってくれました。夫の両親に頼れないときにはベビーシッターをお願いしたこともあります。職場も協力的でした。おなかの大きな私を、学年の先生みんながいたわってくれました。授業中に、「渡部先生、保育園から電話だよ。」と職員室の先生が来てくださり、その後の自習監督も快く引き受けてくださることもありました。問題を抱えているご家庭から夜中に相談の電話が来ることもありました。教員の夫もよく理解してくれました。出会った中学生はいろいろなお子さんがいましたが、どの子もかわいくて大好きでした。私が仕事することを理解してくれた夫、3人の子ども、夫と私の両親、そして両方の職場に感謝でいっぱいです。でも、もしかなうのなら、私の小さかったかわいい子どもたちをもっともっとたくさん抱っこしたかった、と思います。教員の育児休業が3年間まで許されるようになったのは、もっとずっと後のことです。

時代の流れでしょうか。幼保連携型認定こども園に移行したからでしょうか。見学をされる方の中にもお仕事を携わっている方が本当に増えました。幼保連携型認定こども園の良さは、保育園の機能と、幼稚園の機能を併せ持っているということです。お母さんが仕事をしていてもしていなくても同じ園に通わせられる、ということです。

子どもはみんなで育てるのです。園とお父さんとお母さんとおじいちゃんもおばあちゃんも。子どもが成人するまではどんなに仕事

が忙しくても子どもが第1です。そしてお父さんお母さんの職場にとっても子育て世代に優しい環境を整えてほしいものです。子どもを取り巻く父母の会の活動も、とっても大切です。お子さんのために、幼稚園で大人もつながってほしいと願います。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「ずっと空を見ていた人」

今年の生活発表会は、残念ながら葬儀と重なってしまい、直接見ることはできませんでした。亡くなったのは、お年寄りの福祉に生涯を捧げた女性でした。市内に身寄りがなく、ほんの数人で行われた葬儀でしたが、ご本人は数年前から自分の死を自覚して、ほぼ完璧に、財産の処分、葬儀の費用、会場に至るまで準備を整えていました。それは見事としか言いようがありません。

仕事から、多くの人の死に立ち会ってきました。亡くなる場所が自宅であれ、病室であれ、その瞬間は荘厳で、あたかも礼拝堂にいるかのようです。忘れられない臨終の場面があります。20年ほど前、末期の癌だった女性は、当時はまだ本人に病状を伝えない風潮が残っていて、家族は本人に本当のことを伝えず、そのうち家に戻れるから、と言って励ましました。

しかし、病室で私と二人きりになった時、彼女は私に、自分は本当のことを知っている、もう長くないのですよね、と語りかけました。事実を知らないことを装い、そんな家族への思いやりを最後までもって、数週間後、静かに天国に逝かれました。

また、ある女性は、年老いた夫を自宅でも病院でも、懸命に看病していました。そしてついに医師が死亡を確認した時、泣くでもなく、話しかけるでもなく、そっと立ち上がって病室の窓からずっと空を見つめていました。彼女にどんな思いがあったのか、誰も知ることはありません。

人の死に接する度に、人生は一度きりなんだと気づかされます。命は一つです。だからこそ、大切に、悔いのないように、その人らしさを発揮したい。長い人生を始めただけの子どものために、私たち大人は、そのことの生きた見本になれるかなと感じています。

チャブレン 司祭 下澤 昌